

千代田区議会議員

公共施設調査・整備特別委員会 委員長



「平和使節団 知覧・沖縄班に同行」

小林やすお

7/23～26の日程で「千代田区 平和使節団」の一員として、鹿児島知覧・沖縄班に中学生3人、高校生2人、区職員2名に同行、使節団は他に広島班・長崎班があります。

一般的な旅行では「ひめゆりの塔」及び「平和祈念資料館」で女子学徒の私記を閲覧するなどと思いますが、戦後77年、沖縄本土復帰50年の年に使節団に同行して多くの戦争遺構見学や講話を聴き改めて戦争の悲惨さを学びました。

今年、6/23「沖縄全戦没者追悼式」で小学2年生(7才)の徳元穂菜さんが朗読した「平和の詩」の題名は「**こわい** **を** **し** **っ** **て**、**へ** **い** **わ** **が** **わ** **か** **っ** **た**」です。家族で美術館に行き戦争犠牲者の絵を見て怖かった思いを作文したそうです。

(次ページに全文掲載)



「知覧特攻平和会館」については、私の本会議質問から施策として実現したもので、特攻兵の遺書を同世代の使節団員に読んでいただき、実際に恋人・子供・妻・兄弟家族が引き裂かることの、想像力を養うことが戦争の抑止力になると質問し実現しました。



「ひめゆりの塔」では、学生と共に献花し千羽鶴を捧げてまいりました。「ひめゆり平和祈念資料館」では昨年から女生徒の笑顔の写真を多く展示しています。笑顔の写真を見た後に、ひめゆり学徒の証言を閲覧するのは辛いものがありました。



「糸数アブチラガマ」は初めてでした。このガマは鍾乳洞ですが鍾乳石などは削られ、沖縄戦時は住民避難場所、終戦近くは陸軍病院分室としてひめゆり学徒が配属されました。

神田児童館の千羽鶴➔

普天間基地・オスプレイ

